

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第2部門第1区分

【発行日】平成28年10月20日(2016.10.20)

【公開番号】特開2015-178052(P2015-178052A)

【公開日】平成27年10月8日(2015.10.8)

【年通号数】公開・登録公報2015-063

【出願番号】特願2014-55608(P2014-55608)

【国際特許分類】

B 0 1 J 20/22 (2006.01)

C 0 2 F 1/28 (2006.01)

B 0 1 J 20/02 (2006.01)

B 0 1 J 20/30 (2006.01)

【F I】

B 0 1 J 20/22 B

C 0 2 F 1/28 F

B 0 1 J 20/02 A

B 0 1 J 20/30

【手続補正書】

【提出日】平成28年8月30日(2016.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0026

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0026】

反応溶媒に関しては、芳香族性溶媒がより好ましいが、アルコール類、およびアルコール類と水の混合溶媒など、チオール部位やチオレート部位を有するカップリング剤を溶解できるものであれば良い。反応温度に関しては、特に芳香族性溶媒を用いる場合は、カップリング剤の加水分解が起こりにくく、カップリング剤同士の縮合反応が起こりにくい点が好ましい。さらに、高温で処理を行うことができ、配位子の修飾率を高めることができる点で更に好ましい。一方、水溶性溶媒中では、カップリング剤の加水分解が起こり易く、カップリング剤同士の縮合反応が起こり易いので、より低温で行うことが好ましい。